

平成 30 年度

# 全国学力・学習状況調査結果分析報告書

(ガイドブック)



平成 30 年 4 月に実施された「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7 月 31 日に文部科学省から公表されました。

本県では、全国の平均正答率を上回ったのは、10 教科中 1 教科（中学校数学 A）にとどまりましたが、小学校では、昨年度に比べ「国語 A」「算数 A」で全国の平均正答率との差が縮まり、中学校では、小学校 6 年生時と比べ「国語 A」「数学 A」「理科」で全国の平均正答率との差が縮まりました。

また、児童生徒質問紙調査からは、「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が増えていること、「新しい問題を解いてみたい・できるようになりたい」と回答している児童生徒の割合や地域と積極的に関わっている児童生徒の割合が全国に比べ高いことから、たくさんの方に見守られる中で子どもたちの自尊感情や、やる気が育まれていることがうかがえます。このことは、市町等教育委員会と学校とが、家庭・地域と連携し、取組を進められたことによるものだと考えます。

一方、小学校国語・算数、中学校数学の活用力を問う B 問題で全国との差が広がるとともに、経年的な課題である「文章を正確に読み取り考えを書くこと」（国語）や「割合・図形」（算数・数学）について改善につなげることができませんでした。これまで様々な取組を進めるなかで、子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認することが不十分であったと考えます。

今回の結果をふまえ、各学校においては、学習内容の理解・定着状況を確認するための取組や経年的な課題の改善に向けた取組を進めることが、また、家庭・地域においては、引き続き課題である生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立に向けた取組を広げていくことが大切です。

子どもたちの学力が向上することは、自尊感情・自己肯定感やチャレンジする力を高め、将来の夢を実現するための可能性や選択肢を広げることにつながります。私たち大人一人一人は、子どもたちのために、そのやる気や頑張りに応じていく必要があります。

現在、みえの子どもたちの夢や希望をかなえる学力を育てていくため、県・市町等教育委員会、学校・家庭・地域が一体となって「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」に取り組んでいます。子どもたちの豊かな未来の実現に向け、引き続き県民の皆様方の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

～全ては「子どもたちの笑顔」のために～

平成 30 年 11 月  
三重県教育委員会

# 第1章 三重県全体概況【本冊：P3～】

## 教科に関する調査の結果

子どもたちの最後まで頑張ろうとする姿が見られます

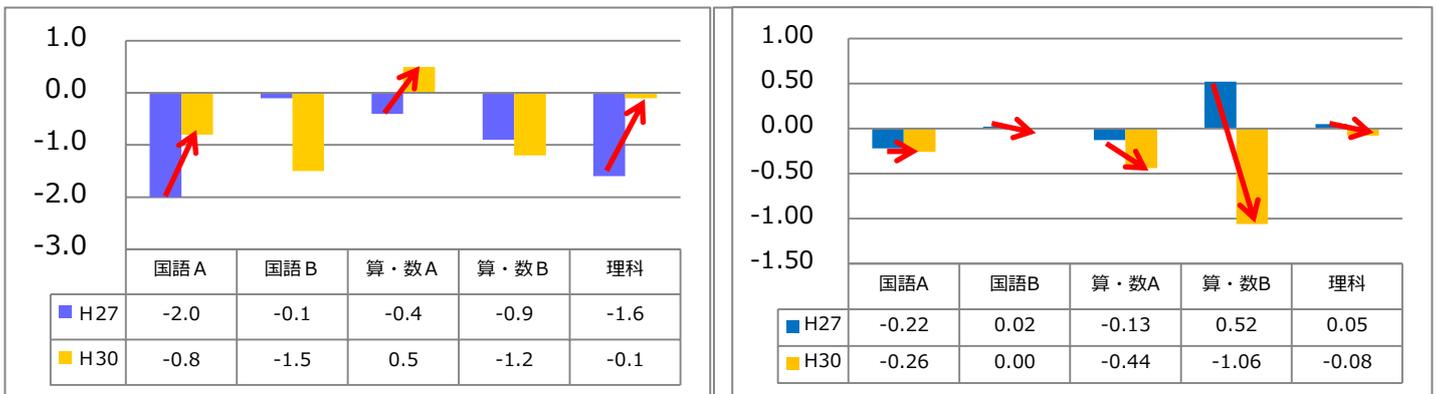
教科に関する調査では、全国の平均正答率を上回ったのは中学校数学Aのみにとどまりましたが、小学校では、昨年度に比べ国語A、算数Aで、全国の平均正答率との差が縮まり、中学校では、小学校6年生時（平成27年度調査）と比べ国語A、数学A、理科で改善しました。また、平均無解答率（問題に何も答えていなかった割合）は、小中学校合わせて10教科中6教科で全国平均よりも低く（良好）、子どもたちの最後まで頑張ろうとする姿が見られます。

【各教科の平均正答率と平均無解答率】

	平均正答率					平均無解答率				
	国語A	国語B	算・数A	算・数B	理科	国語A	国語B	算・数A	算・数B	理科
小学校	70.1(-0.6)	53.6(-1.1)	62.8(-0.7)	50.1(-1.4)	58.8(-1.5)	2.98(-0.53)	3.89(+0.13)	2.03(-0.45)	8.26(+0.33)	1.23(+0.02)
中学校	75.3(-0.8)	59.7(-1.5)	66.6(+0.5)	45.7(-1.2)	66.0(-0.1)	2.89(-0.26)	3.01(0.00)	2.84(-0.44)	11.55(-1.06)	4.96(-0.08)

\* ( ) の数値は、全国平均との差を示します。各教科の「A」は主として「知識」に関する問題、「B」は主として「活用」に関する問題が出題されています。

【同一児童生徒（小6→中3）の伸び】 左：平均正答率の全国との差 右：平均無解答率の全国との差

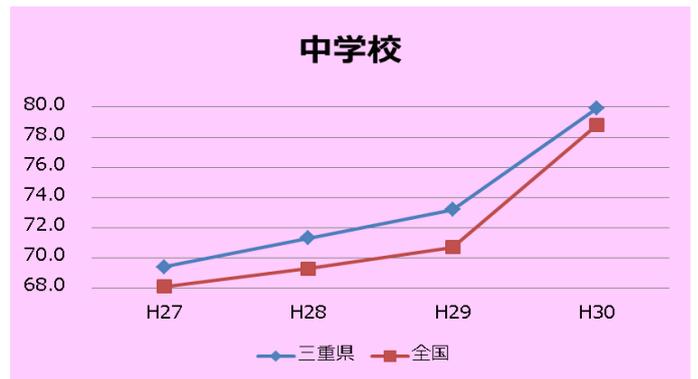
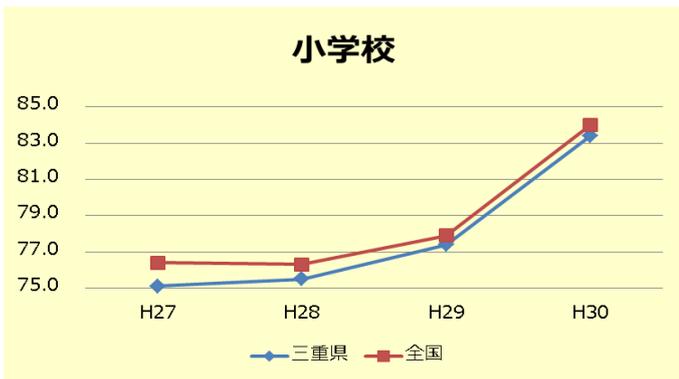


## 質問紙調査の結果

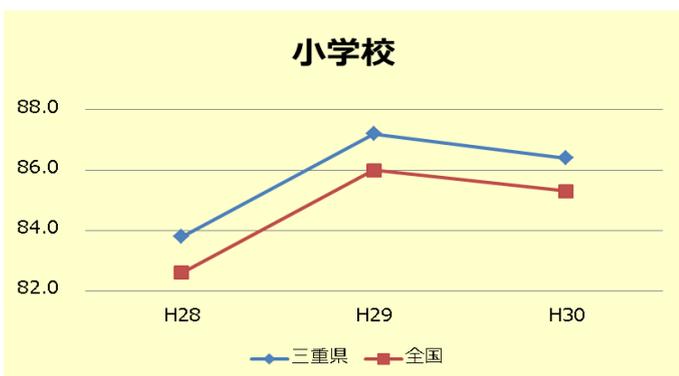
「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が増えています

児童生徒質問紙調査の「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、肯定的（「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」）に回答した児童生徒の割合は、増加傾向にあります。

【自分には、よいところがあると思う<児童生徒質問紙調査>】 \* グラフの縦軸の数値は肯定的に回答した児童生徒の割合を示します。



【先生はよいところを認めてくれる<児童生徒質問紙調査>】 \* グラフの縦軸の数値は肯定的に回答した児童生徒の割合を示します。

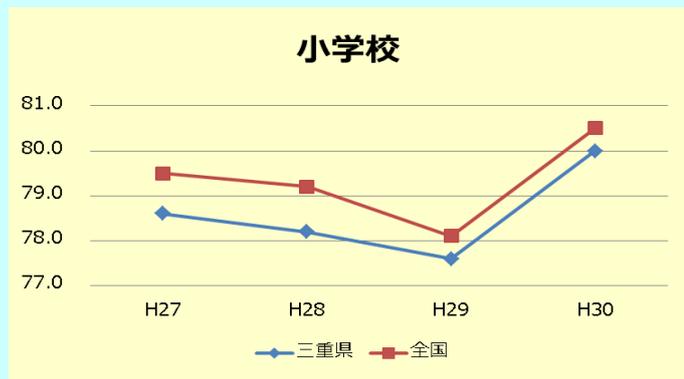


\* 平成27年度は、同様の質問項目の調査は行われませんでした。

家庭での過ごし方において、「家の人と学校での出来事について話をする」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は増加しています。一方で学習習慣（家庭での学習時間）、読書習慣（自主的な読書時間）には継続的に課題が見られます。

**【家の人との対話<学校での出来事について>（している、どちらかといえばしている）<児童生徒質問紙調査>】**

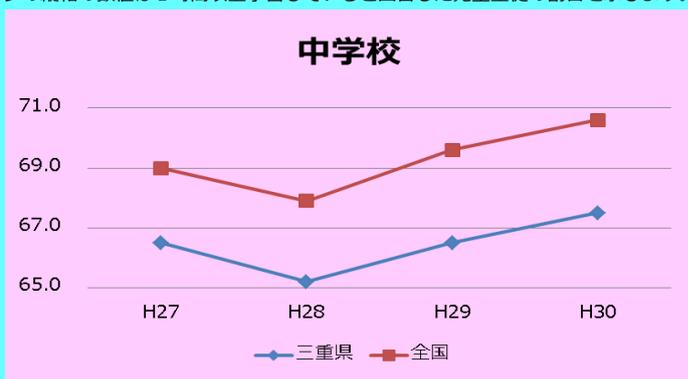
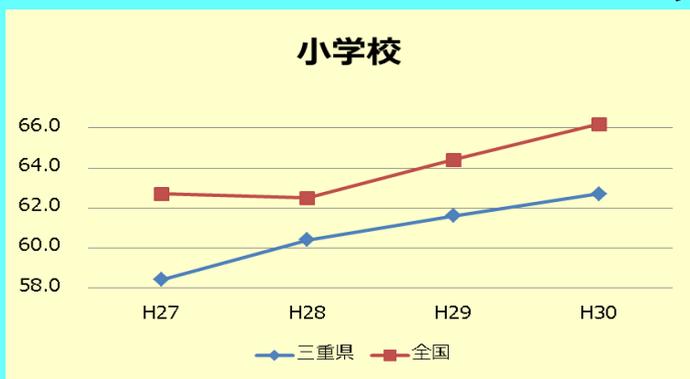
\* グラフの縦軸の数値は肯定的に回答した児童生徒の割合を示します。



「家の人と学校での出来事について話をする」との質問に、肯定的（している、どちらかといえばしている）に回答した児童生徒の割合は、昨年度から大きく増加しています。この質問項目は、教科に関する調査の平均正答率と関連があり、対話をしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率には、大きな差（特に国語、算数・数学ともに活用力を問う B 問題）が見られます。

**【平日の学習時間（1 時間以上）<児童生徒質問紙調査>】**

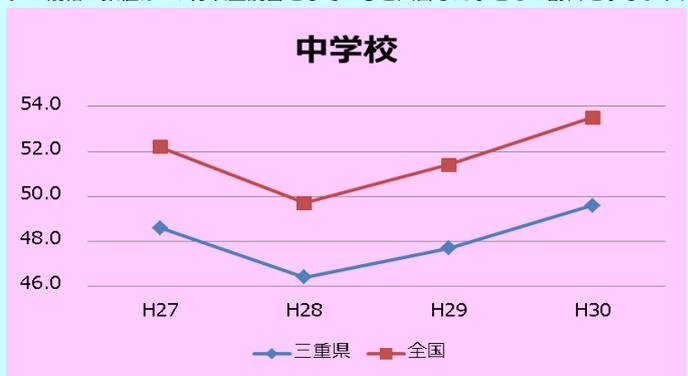
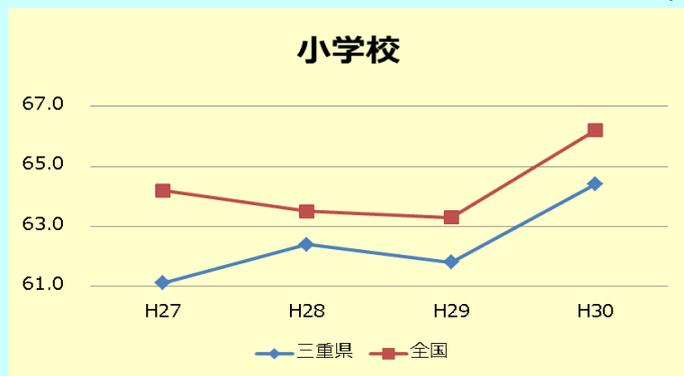
\* グラフの縦軸の数値は1時間以上学習していると回答した児童生徒の割合を示します。



児童生徒の家庭における学習習慣は、近年改善傾向にあります。全国と比較すると、小中学校ともに依然として大きな差があります。この質問項目は、教科に関する調査の平均正答率と関連があり、学習習慣（小学校では1時間以上、中学校では1～3時間）が確立されている子どもの方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

**【授業以外の読書時間（10 分以上）<児童生徒質問紙調査>】**

\* グラフの縦軸の数値は10分以上読書をしていると回答した子どもの割合を示します。



児童生徒の読書習慣は、引き続き課題が見られます。読書は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤をなす言語に関する能力を育む上で欠くことのできないものです。図書館を活用した授業づくりや朝の読書（朝読）はもとより、大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをおして家庭読書（家読）を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立していきましょう。

## 第2章 教科に関する調査結果の分析 [本冊：P20～]

### 小学校国語

#### ●改善の見られた設問●

国語A [8]ウ 【問題の概要】 文の中で漢字を使う

文の中で用いる漢字を正しく選択することができています。

##### 正答と主な誤答例の反応率

- しょう毒する (①説明をはぶく、②文字をけす、③赤組がかつ から同じ漢字が使われているものを選択)  
正 答【②を選択しているもの】 反応率：82.5% (全国との差：+0.3)  
主な誤答例【①を選択しているもの】 反応率：8.4% (全国との差：+0.6)
- 品質をしっかりとかん理している (①かん成した作品、②警察かん、③試験かん から同じ漢字が使われているものを選択)  
正 答【③を選択しているもの】 反応率：65.5% (全国との差：+0.5)  
主な誤答例【②を選択しているもの】 反応率：21.1% (全国との差：+0.6)

#### ●課題の見られた設問●

国語B [1]三

【問題の概要】これから言葉をどのように使っていきたいかについて、【話し合いの様子の一部】の北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、自分の考えを書く

根拠に基づいて自分の考えを書くことに課題が見られました。

##### 正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① 以下の内容を取り上げて書いている。  
a：北川さん、小池さんのいずれかの意見 b：取り上げたことに対してどう考えるのか
- ② 「これから言葉をどのように使っていきたいか」について自分の考えを書いている。
- ③ 80字以上、100字以内で書いている。

正 答【条件①a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの】 反応率：32.7% (全国との差：-1.1)

主な誤答例

- 【解答類型3 条件①a、bは満たしているが、②は満たしていないもの】 反応率：17.5% (全国との差：+1.4)  
【解答類型8 条件②は満たしているが、条件①a、bは満たしていないもの】 反応率：17.6% (全国との差：-0.7)

#### <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

自分の考えをまとめる際には、相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例（説明的文章や文学的文章では叙述）を根拠として取り上げ、その根拠に基づいて、自分の考えを、筋道を立ててまとめることができるよう指導することが大切です。

#### 解答類型3：自分の考え(これから言葉をどのように使っていきたいか)について書いていない

つまずき1 自分の考えをもつことができない

【指導のポイント】まず、自分の考えをもつ時間や場を明確に設定しましょう。「書くこと」の時間だけでなく、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」においても自分の考えをもつ時間や場を意図的に設定しましょう。(全学年)

つまずき2 「言葉や文を取り上げた＝自分の考えを書いた」と誤って捉えている

【指導のポイント】「なぜ、そのように考えたのか。」と問うた時、「〇ページの〇行目に△△と書いてあるからです。」とのやりとりで終わるだけでなく、「そこからどのようにあなたは考えたのか。」と自分の考えまで言えるように指導しましょう。(第3・4学年)

#### 解答類型8：北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げて書いていない 取り上げた意見に対してどう考えるのかを書いていない

つまずき3 何を根拠として取り上げれば良いのかが分からない

【指導のポイント】自分の考えを伝える場合には、なぜ、そのように考えたのかについての根拠を明確にして伝えることを意識させましょう。話し合い活動では話し手の意見と自分の意見を比べながら聞き、話し手の意見を根拠として取り上げ、自分の考えを伝えるように指導しましょう。(第5・6学年)

つまずき4 取り上げたことに対してどのようにまとめていくのかが分からない

【指導のポイント】事実と感想、意見を区別できるように指導するとともに、具体的事例をどのように配置し、それを自分の意見とどのように結び付けるかなどの文章全体の構成の見本を示すことも大切です。(第5・6学年)

#### ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット第9弾 「話し合いをしよう」【第5学年】
- ・三重の学-Viva!!セット第10弾 「情景から人物の心情を想像しよう」【第5学年】

# 中学校国語

## ●改善の見られた設問●

国語 A 8 六 1

【問題の概要】「韓非子」の中の語句（いはく）の意味を、現代語訳から抜き出す

古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることができます。

### 1 正答と主な誤答例の反応率

正 答【「言うには」「言う」「言うに」のいずれかを解答しているもの】

反応率：92.0%（全国との差：+0.9）

主な誤答例【無解答】反応率：4.4%（全国との差：-0.7）

### 2 過去の類題との経年比較

平成 29 年度出題 A 9 七 1 「徒然草」の中の語句（あやしう）の意味を、現代語訳から抜き出す

正 答【「不思議と」または「不思議」と解答しているもの】 反応率：76.5%（全国との差：-0.7）

主な誤答例【正答以外の解答】 反応率：19.8%（全国との差：+0.9）

## ●課題の見られた設問●

国語 A 8 四 2

【問題の概要】「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにした上で、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く

主語を明らかにして文を書くことに課題が見られました。

### 正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① 「心を打たれた」の正しい意味を理解して書いている。
- ② 「心を打たれた」の主語を明確にして書いている。
- ③ 「誰（何）」のことに「心を打たれた」のかが分かるように書いている。
- ④ 「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書いている。
- ⑤ 一文で書いている。

正 答【解答類型 1 条件①②③④⑤を満たしているもの】反応率：20.1%（全国との差：-2.2）

主な誤答例【解答類型 5 条件①③④⑤を満たし、②を満たしていないもの】

反応率：65.7%（全国との差：+2.2）

## <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

主語と述語については小学校第 1 学年から、適切な係り受け、文の構成について各学年で繰り返し学習します。書き言葉としての文章だけでなく、話し言葉としての話の中にも含まれる文においても、日常的に意識させて指導することが大切です。

### 解答類型 5：主語を明らかにせずに書いている

つまずき 1 主語と述語の照応が理解できていない

【指導のポイント】 主語を正しく理解していないため、条件の「『誰（何）』の」を「『誰（何）』が」と混同してしまっていることが考えられます。

文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるようになっていくかを常に吟味するように指導することが大切です。「書くこと」の学習との関連を図り、推敲の際の一つの観点として取り入れることも効果的です。

つまずき 2 問題文の文章表現を適切に読み取ることができていない

【指導のポイント】 問題文の強調されているところのみに注目し、「主語を明らかにした上で」という条件を読み飛ばしていることが考えられます。

複数の条件がある場合、はじめに出てきた条件を忘れてしまうことがあります。条件に線を引いて確認しながら読むなど、何が求められているのか正確に把握できるよう工夫することが大切です。

## ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット第 11 弾 「主述の関係を理解しよう」【(中) 第 1 学年】
- ・三重の学-Viva!!セット第 12 弾 「主語・述語の関係を理解しよう」【(中) 第 1 学年】

### ○各学年の指導事項

【小学校第 1・2 学年】文の中における主語と述語の関係に気付くこと

【小学校第 3・4 学年】主語と述語の関係について理解すること

【小学校第 5・6 学年】文の中で語句の係り方や語順について理解すること

【中学校第 1 学年】単語の類別について理解すること

【中学校第 2 学年】文の成分の順序や照応などの文の構成について理解すること

# 小学校算数

## ●改善の見られた設問●

算数A①(2)

【問題の概要】針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ

<選択肢>



1に当たる大きさを求める問題場面において数量の関係を理解し、数直線上に表すことができます。

### 1 正答と主な誤答例の反応率

正答【解答類型1(順にエ、ア、イ)を選択】 反応率: 68.0% (全国との差: +1.3)  
 主な誤答例【解答類型2~7(□の場所をイと解答)を選択】 反応率: 10.4% (全国との差: -0.4)

### 2 過去の類題との経年比較

平成29年度出題 A①(2) 買ったリボンの長さと、1m当たりのリボンの値段(60円)と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ

正答【解答類型1(順にイ、エ、ア)を選択】 反応率: 70.4% (全国との差: +0.5)  
 主な誤答例【解答類型2~5(60の場所をイと解答)を選択】 反応率: 10.5% (全国との差: -0.7)

## ●課題の見られた設問●

算数A⑦(1)

【問題の概要】円周率を求める式として正しいものを選ぶ

<選択肢>

- 1 円周の長さ × 半径の長さ
- 2 円周の長さ × 直径の長さ
- 3 円周の長さ ÷ 直径の長さ
- 4 直径の長さ ÷ 円周の長さ

円周率の意味について理解することに課題が見られました。

### 1 正答と主な誤答例の反応率

正答【解答類型3(円周の長さ÷直径の長さ)を選択】 反応率: 39.0% (全国との差: -2.6)  
 主な誤答例【解答類型2(円周の長さ×直径の長さ)を選択】 反応率: 39.1% (全国との差: +2.1)

### 2 過去の類題との経年比較

平成20年度出題 A⑦ 円周率を求める式として正しいものを選ぶ(円周率は、円周÷)

正答【解答類型2(直径の長さ)を選択】 反応率: 75.3% (全国との差: -1.5)  
 主な誤答例【解答類型4(円の面積)を選択】 反応率: 10.7% (全国との差: +1.0)

## <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、「円周率が円周の直径に対する割合」であることを理解できるようにすることが大切です。

### 解答類型2: 「円周の長さ×直径の長さ」を選択

つまずき1

円周率を求める式と円周を求める式を混同して、円周率が「円周の直径に対する割合」であることを捉えられていない



直径の長さの  
3倍より長い



直径の長さの  
4倍より短い

【指導のポイント】

第3学年「円と球」、第5学年「円周率」

**円周の長さは直径の長さの何倍になっているかとの見通しを持たせて捉えさせる**

・半径と直径の長さの関係から、正多角形と直径とを比較させ、「直径の長さの3倍より長く、4倍より短い」ことをとらえられるように指導しましょう。

### 解答類型4: 「直径の長さ÷円周の長さ」を選択

つまずき2

もともとなる量が「直径の長さ」であることを捉えられていない

【指導のポイント】第5学年「円周率」

**身のまわりの円を調べる活動を通して、いつでも円周の長さが「直径の長さの約3.14倍になる」ことに気づかせる**

・円周の長さと直径の長さとの関係に着目させ、円周の長さは直径の長さの何倍になるのかについて見通しをもつことが大切です。表などにまとめさせ、計算して約3.14倍を確かめさせましょう。

測ったもの	コップ	お皿	おぼん	タイヤ
円周の長さ(cm)	22	36.1	78.6	125.7
直径の長さ(cm)	7	11.5	25	40
円周の長さ÷直径の長さ	約3.14	約3.14	約3.14	約3.14

## ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット第11弾 「円周の長さを比べよう」【第5学年】
- ・わかる・できる育成カリキュラム(図形編)P27 たしかめプリント「円を調べよう」【第3学年】

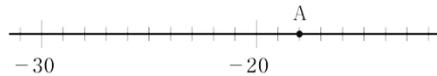
# 中学校数学

## ●改善の見られた設問●

数学 A 1 (1)

【問題の概要】数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る

数直線上に示された負の整数を読み取ることができています。



### 1 正答と主な誤答例の反応率

正 答【解答類型 1 -18 と解答しているもの】  
 主な誤答例【解答類型 3 -22 と解答しているもの】

反応率：94.8% (全国との差:+0.2)  
 反応率：3.3% (全国との差:-0.2)

### 2 過去の類題との経年比較

平成 24 年度 A 1 (3) 数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る  
 正 答【解答類型 1 -970 と解答しているもの】  
 主な誤答例【解答類型 2 -700 と解答しているもの】

反応率：65.1% (全国との差:-1.3)  
 反応率：11.4% (全国との差:-0.8)

## ●課題の見られた設問●

数学 B 5 (1)

【問題の概要】S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題が見られました。

### 1 正答と主な誤答例の反応率

◎ 正答【解答類型 1  $\frac{560}{3500} \times 100$  と解答しているもの】

反応率：11.9% (全国との差:-0.9)

○ 正答【解答類型 2 16 など上記 1 を計算して百分率を解答しているもの】

反応率：2.5% (全国との差:-0.6)

主な誤答例【解答類型 3  $\frac{560}{3500}$  と解答しているもの】

反応率：20.4% (全国との差:+0.6)

### 2 過去の類題との経年比較

平成 27 年度 B 5 (1) 1 回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える

◎ 正答【解答類型 1  $201 \div 305$  または、 $201 \div 305$  を用いた正しい式を解答しているもの】

反応率：37.1% (全国との差:-2.0)

○ 正答【解答類型 2 0.66 や 66% など、上記 1 を計算して割合を解答しているもの】

反応率：0.0% (全国との差:0.0)

主な誤答例【解答類型 3  $305 \div 201$  または、 $305 \div 201$  を用いた式を解答しているもの】

反応率：14.2% (全国との差:+0.4)

## <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択して、的確に処理することができるように指導することが大切です。

### 解答類型 3 : $560/3500$ と解答しているもの

つまずき 1

基準量や比較量を捉えているが、百分率を求める式と割合を求める式の区別ができていない

【指導のポイント】小学校第 5 学年「百分率」

基準とする量の大きさを 100 として、それに対する割合で表す方法が百分率（パーセント）であることを理解させる

・日常生活の場面で百分率を用いる活動を通して、その意味を理解できるように指導しましょう。

### 解答類型 6 : $3500/560$ と解答しているもの

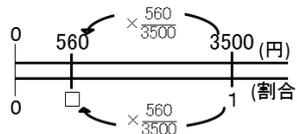
つまずき 2

分母にする数と分子にする数を逆にしており、基準量と比較量を捉えられていない

【指導のポイント】小学校第 5 学年「割合」

基準量・比較量・割合を捉え、それらを的確に式に表す活動をさせる

・数直線図や比例式を用いて指導しましょう。



3500を1とみたときの値を求めればよいので、  
 $560:3500=x:1$   
 $x=\frac{560}{3500}$

## ●課題に対応したワークシート●

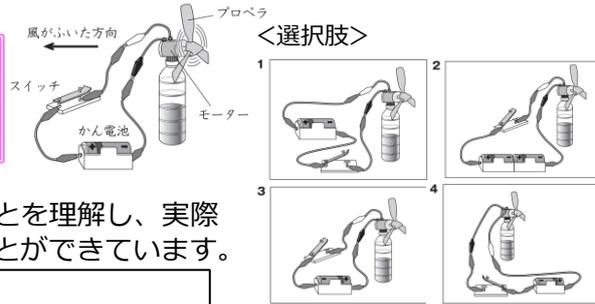
・三重の学-Viva!!セット第 12 弾 「文字を用いた式（割合）」【第 1 学年】

# 小学校理科

## ●改善が見られた設問●

理科 3 (1)

【問題の概要】風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ



乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを理解し、実際の回路において、電流の向きが逆になる回路を選ぶことができます。

### 正答と主な誤答例の反応率

正 答【解答類型3を選択】 反応率：64.4% (全国との差：+0.9)  
 主な誤答例【解答類型4を選択】 反応率：17.7% (全国との差：±0.0)

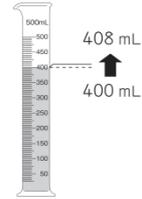
## ●課題が見られた設問●

理科 4 (3)

【問題の概要】400mL (400g) の水に 12g の食塩をとかしたら、体積は 408mL になったが、その時の食塩水の重さを求める

＜選択肢＞

- 1 400g になる。
- 2 408g になる。
- 3 412g になる。
- 4 420g になる。



### 1 正答と主な誤答例の反応率

正 答【解答類型3 (412g) を選択】 反応率：38.4% (全国との差：-4.3)  
 主な誤答例【解答類型2 (408g) を選択】 反応率：29.9% (全国との差：+2.0)

### 2 過去の類題との経年比較

平成 24 年度出題 1 (2) 氷砂糖を水に溶かしたときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ  
 正 答【解答類型2 (192g と変わっていない) を選択】 反応率：64.2% (全国との差：-12.1)  
 主な誤答例【解答類型3 (192g より重くなっていた) を選択】 反応率：17.4% (全国との差：+ 6.7)

## ＜解答類型別に見たつまずきと指導のポイント＞

「物が水に溶ける」ということについては、水に溶けた物は視覚で捉えることができないため、水溶液の重さや体積をはかり、定量的に考えることができるようにすることが大切です。さらに、物が水に溶ける様子を絵や図等を用いて表現することで、質的・実体的な視点で捉えることができるようにすることも考えられます。

### 解答類型1：「400g」を選択

つまずき1

食塩が水に溶けると、食塩の重さが無くなると考えていて、物を水に溶かしても「全体の重さは変わらない」ことを捉えられていない

【指導のポイント】第5学年「物の溶け方」

水に溶けて見えなくなった食塩の存在を意識させて考えさせましょう  
 ・物が水に溶ける様子を絵や図等を用いて表現することで、質的・実体的な視点で捉えさせましょう。

### 解答類型2：「408g」を選択

つまずき2

食塩水の増えた体積分だけ全体の重さも増えると考えていて、増えた体積分 (8mL) が、溶かした食塩の重さと捉えている

【指導のポイント】第3学年「物と重さ」

物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを捉えさせる

・「水は1mLが1g」という既習の内容とともに、「同じ体積のものは、物の種類がちがうと重さがちがう」と関連付けて、食塩水8mLは8gでないことを捉えさせましょう。

## ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット第11弾 「水に溶けた物のゆくえ」【第5学年】
- ・平成26年度 ワークシート 「物が水に溶ける・溶けない」【第5学年】

# 中学校理科

## ●改善の見られた設問●

理科 8 (1)

【問題の概要】アルミニウムの原子の記号を選ぶ

<選択肢>

ア AL    イ Al    ウ aL    エ al  
アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けています。

### 1 正答と主な誤答例の反応率

正 答【イを選択】 反応率：84.1% (全国との差：+0.6)  
主な誤答例【アを選択】 反応率：6.2% (全国との差：-0.3)  
【エを選択】 反応率：6.4% (全国との差：-0.3)

### 2 過去の類題との経年比較

平成 27 年度出題

1 (1) 塩化ナトリウムの化学式を選ぶ

ア NaCl    イ ClNa    ウ Nacl    エ Clna

正 答【アを選択】 反応率：79.2% (全国との差：-0.4)  
主な誤答例【イを選択】 反応率：10.7% (全国との差：-0.1)  
【ウを選択】 反応率：9.1% (全国との差：+0.7)

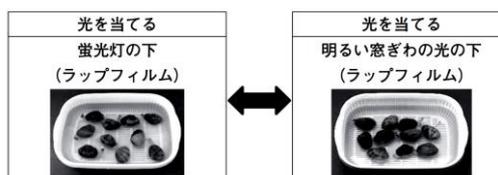
## ●課題の見られた設問●

理科 2 (4)

【問題の概要】1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる

アサリが出す砂の質量と明るさの関係について調べる実験

において、1つの要因（明るさ）を変える（蛍光灯の下と明るい窓ぎわの光の下で比較する）と、その他にも変わる可能性のある要因（水温、気温、湿度など）を指摘することに課題が見られました。



### 正答と主な誤答例の反応率

正 答【「温度」「蒸発による水の量の変化」「蒸発による濃度の変化」「水温の上昇による水に溶けた気体の量」に関して記述しているもの】 反応率：57.4% (全国との差：-3.9)  
主な誤答例【「光」に関して記述しているもの】 反応率：13.8% (全国との差：+1.8)  
【「砂」に関して記述しているもの】 反応率：5.6% (全国との差：+0.8)  
【「アサリ」に関して記述しているもの】 反応率：5.1% (全国との差：+0.2)

## <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

科学的に探究する能力の基礎や態度を育成する上で、自然の事物・現象の中から要因を抽出し、適切に条件を制御して観察・実験を計画することが大切です。

次に示す解答類型5～7には、実験の条件を制御することに課題があると考えられます。

### 解答類型5：「光」に関して記述しているもの

つまずき1  
「光」は「変える条件」（独立変数）であることを捉えられていない

### 解答類型6：「砂」に関して記述しているもの

つまずき2  
「砂の量」は条件を制御して実験を行った「結果」（従属変数）であることを捉えられていない

### 解答類型7：「アサリ」に関して記述しているもの

つまずき3  
アサリの状態や個体差を考慮して、複数の個体を使って「変えない条件」として制御していることを捉えられていない

### 【指導のポイント】

第2学年「動物の生活の生物の変遷」

はじめに「変化すること（従属変数）」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討します。次にそれらの要因を「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」に整理して、実験を計画する学習場面を設定することが考えられます。

その際、「変化すること（従属変数）」以外に「変える条件（独立変数）」に伴って「変わってしまう条件」について検討することが大切です。

## ●課題に対応したワークシート●

・三重の学-Viva!!セット第12弾 「種子の発芽に必要な条件」【第1学年】

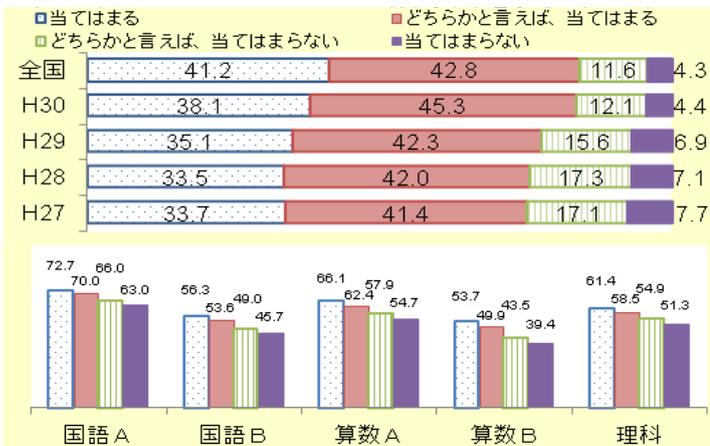
# 第3章 質問紙調査結果の分析 [本冊：P32～]

## 子どもたちの自尊感情

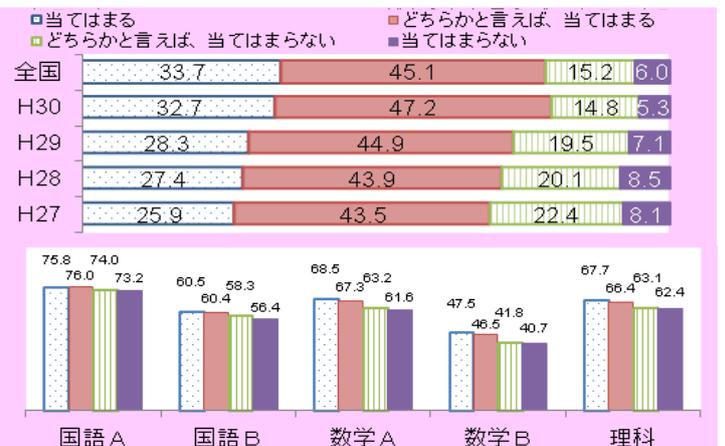
多くの大人が関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です

【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか。

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。

※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

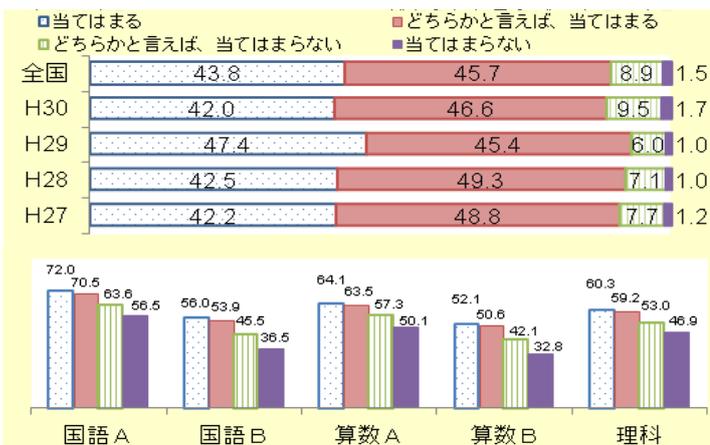
「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、肯定的（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）に回答した児童生徒（小中学生）の割合は増加傾向にあり、過去4年間で最も高くなっています。また、肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「わかった」「できるようになった」という達成感を積み重ね、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

## 子どもたちの規範意識

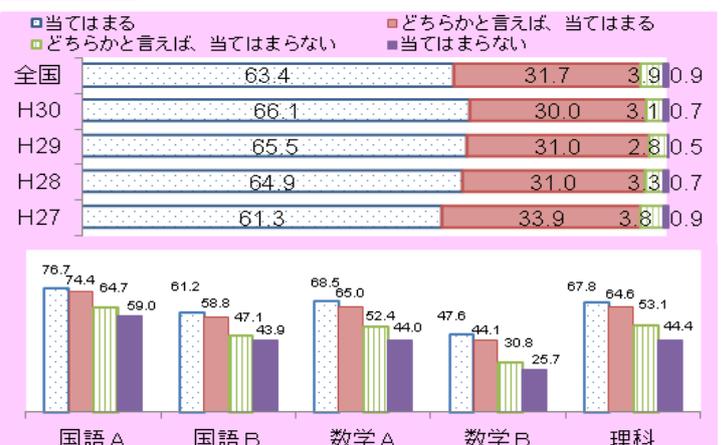
小学校では国語B、算数Bで、中学校では数学A・B、理科で、平均正答率と大きな関連が見られます

【児童生徒質問紙】学校のきまり（規則）を守っていますか。

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。

※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

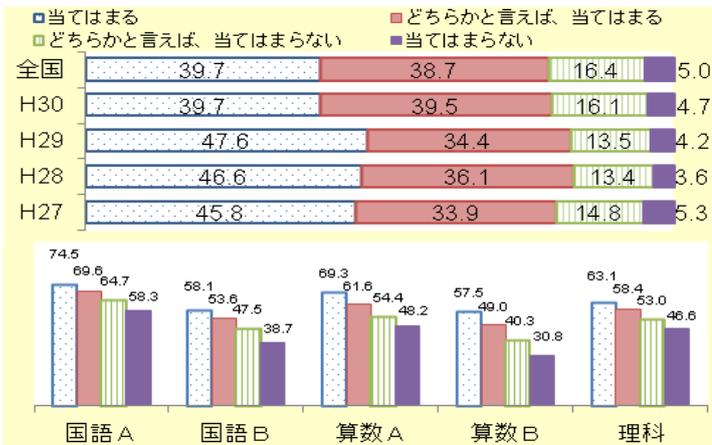
「学校のきまり（規則）を守っていますか」の質問に対し、肯定的（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）に回答をした生徒（中学生）の割合は、年々高くなっています。一方、児童（小学生）の割合は、昨年度と比較すると低くなっています。小学校では国語B、算数Bで、中学校では数学A・B、理科で、平均正答率と大きな関連が見られます。授業規律が守られているクラスでは、子どもたち一人ひとりの学習活動（考えたり、表現したりすること）が確実に保証されることから、平均正答率に影響していると考えられます。

## 子どもたちの学習意欲

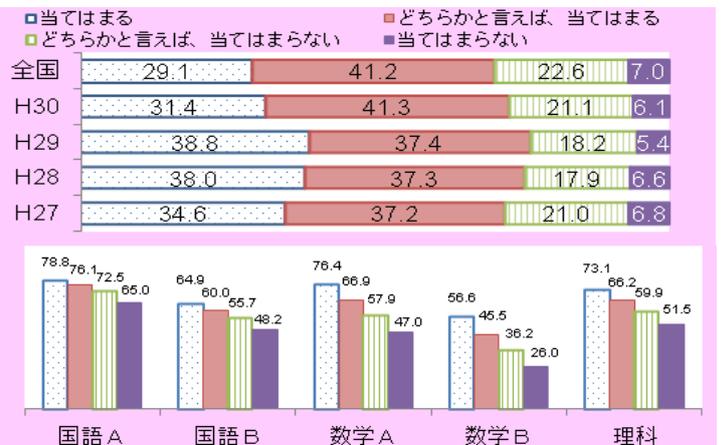
子どもたちの活動のプロセスを認め、自信を持たせる取組を進めていくことが大切です

【児童生徒質問紙】算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。  
 ※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対し、肯定的（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）に回答をした児童生徒の割合は、全国を上回っていますが、本県の割合を経年で比較すると、児童では平成 29 年度以降（生徒では本年度）減少しています。

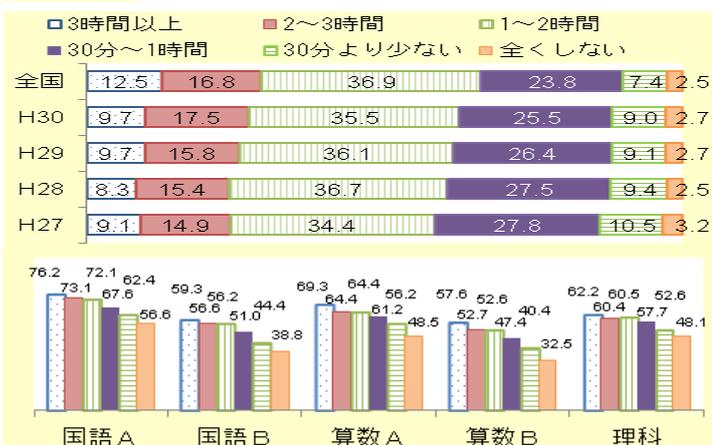
学校の取組、適切な評価が子どもたちの自尊感情・自己肯定感を高め、達成感や、やる気を育てていきます。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は全国平均を上回っていることから、今後も、子どもたちの活動のプロセスを認め、自信を持たせる取組を進めていくことが大切です。

## 子どもたちの学習習慣

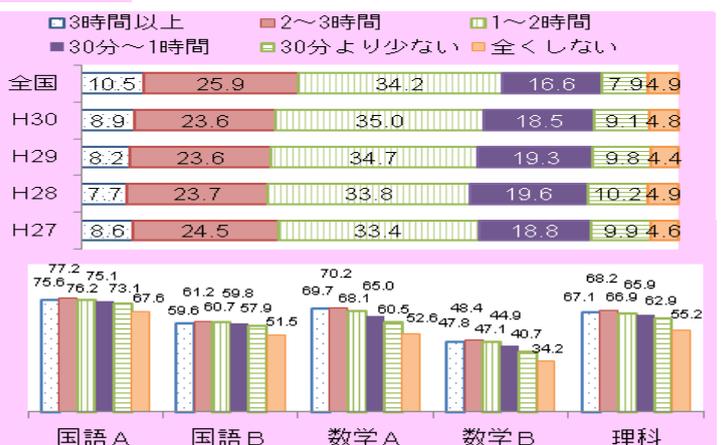
「1 時間以上勉強している」と回答した児童生徒の平均正答率は、全教科で全国平均を上回っています

【児童生徒質問紙】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。  
 ※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

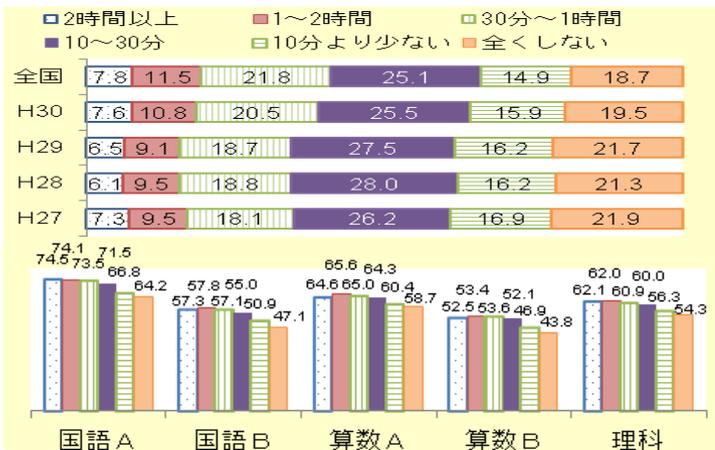
平日に 1 時間以上勉強している児童生徒の割合は、昨年度より増加し、過去 4 年間の中で最も高い状況にありますが、全国平均を下回る状況が続いています。また、回答別に平均正答率を比較すると、「1 時間以上勉強している」と回答した児童生徒の平均正答率は、全ての教科で全国の平均正答率を上回っています。なお、中学校では、学習時間が「2 時間以上、3 時間未満」と回答した生徒の平均正答率が全ての教科で最も高くなっています。「3 時間以上」と回答した生徒は睡眠時間が短く、翌日の授業に集中できていないことが考えられます。

## 子どもたちの読書習慣

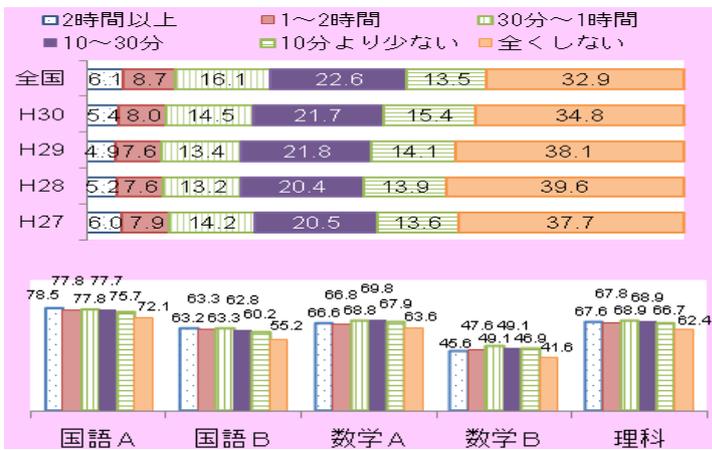
子どもたちが本に出会う機会を拡充するとともに、読書の幅を広げる取組を進める必要があります

【児童生徒質問紙】学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。  
 ※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

平日に10分以上読書をしている児童生徒の割合は、昨年度に比べて増加していますが、依然として全国を下回っています。また、回答別に平均正答率を比較すると、「10分以上読書をしている」と回答した児童生徒の平均正答率は、小学校理科、中学校数学Bを除く全ての教科で全国の平均正答率を上回っています。

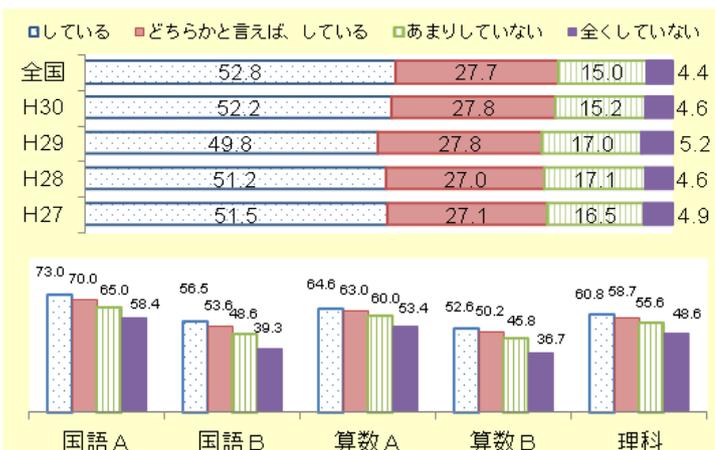
朝の一斉読書の時間の活用を始めとした学級全体で取り組める読書活動を通じて、読書があまり好きではない子どもも含めた取組を促進するなど、子どもたちが本に出会う機会を拡充するとともに、読書の幅を広げる取組を進める必要があります。

## 子どもたちの家族との対話

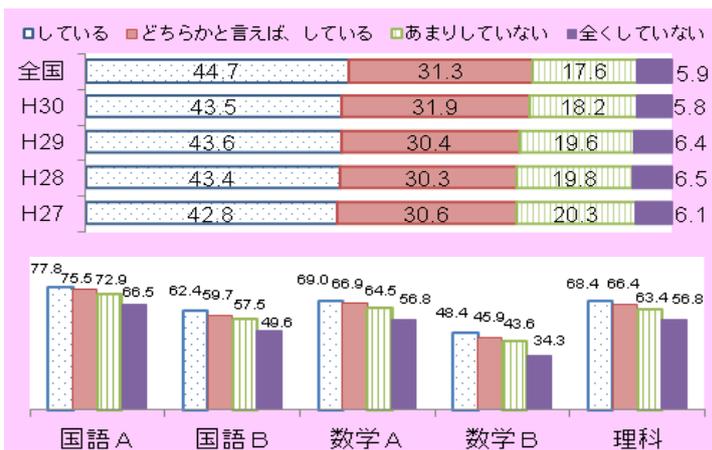
対話をしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率には、大きな差が見られます

【児童生徒質問紙】家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

### 小学校



### 中学校



※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。  
 ※下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。

「家の人と学校での出来事について話をしますか。」の質問に対し、肯定的（している、どちらかと言えばしている）に回答をした児童生徒の割合は、昨年度より増加し、過去4年間の中で最も高くなっています。対話をしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率に差（10ポイント以上）が見られます。子どもたちの自尊心・自己肯定感等と家の人との対話を経年で比較すると、児童生徒ともに同じような伸びを示していることから、家族との対話が自尊心の高まりにもつながると考えられます。

近年、家族と一緒に過ごす時間が減ってきています。「今日は何がよかったかな。」など一日のできごとを、家族で楽しく話したいものです。家庭でも出来ることから始めることが大切です。

## 第4章 県内の取組【本冊：P46～】

### 四日市市立保々小学校

わからないことから出発し、一人ひとりの「わかった」「できた」に

「自分で解く力を、どの子にも身に付けてほしい」という願いから、図示する指導、習熟度別指導、補充学習の取組をじっくりと積み重ねてきました。全国学調やみえスタディ・チェックなどの分析から見てきた子どもたちのつまずきを全教員で共有することで、各学年のおさえたいポイントが明らかになり、課題づくり研修や一人ひとりにあわせた補充学習の取組に生かしています。そして授業では、考えを描いた図や対話をとおして、一人ひとりの理解や定着の状況を確認しながら取組を進めています。

#### 取組① 全学年で図示する活動に取り組み、量感イメージを捉える

四日市モデルの5つのプロセス(四日市市教育委員会「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」)の視点を大切にしながら、子どもたちが問題の内容を整理したり、考えの見通しを持ったりするために、全学年において授業の中で図示する活動を大切にしています。

具体から半具体、そして抽象へのつながりを意識し、発達段階に応じて、テープ図や線分図、数直線図に表し、量感イメージをはっきりさせて、自分の考えを明確にしたり、伝えたりする活動につなげています。図示の形式を指導するとともに、「図のどれが何に当たるのか」「どのくらいの量に当たるのか」などの意味をていねいに確認しながら指導しています。

式・答えと問題文・図とを照らし合わせたとき、子どもたちが自分で間違いに気付けるよう、わからないことを中心に据えて、子ども同士や教員との対話を積極的に取り入れようとしています。ときには、教員が問題や図について問いかけ、自分でもう一度、図と式・答えを見直すきっかけをつくっています。

○テープ図について(学校の共通理解事項)

- ・2つの数量の割合(比)を意識して数量間の線を入れる位置を考えさせる。
- ・全体と2つの数量それぞれを上(全体)と下(2つの数量)に分けてかかせる。
- ・テープ図の中に数をかきこむのではなく、どこからどこまでを示しているかがわかるように図の外に数をかかせる。

【基本の型】



#### 取組② 子どもたちが見通しを持ってコースを選択する習熟度別指導

算数の習熟度別指導では、問題をどのような方法で考えていくかによって、子どもたち自身がコースを選択しています。自分に自信が持てないと、基礎基本コースを選びがちな子どもたちの実態から、単元の始めはTTによる一斉学習の形態で行い、その単元の見通しを持たせます。単元の間中以降の学習において、学習内容の理解状況を確認するテスト等を行いながら、子どもたちが自分のつまずきを知り、子どもたちに自力で考えられるかどうかの見通しを持たせ、習熟度別指導のコース選択を行います。「じっくりコース」では、問題のわかっていることや求めることをていねいに確認しながら学習を進めます。「ぐんぐんコース」では、問題を自力で考えていき、互いの考えを出し合いながら学習を進めます。それぞれのコースで学ぶ過程を変えながら行い、自力で解けることをめざして学習しています。

#### 取組③ 「ステップアップ方式」で理解状況を確認する補充学習

朝の時間帯を活用して補充学習に取り組み、算数を中心に「ステップアップ方式」で学習を進めています。学習で使用するプリントは、算数の各学年における基礎的・基本的な学習内容を分類して、作成しています。同ステップで5種類の問題があり、すべて正答になるまで、5種類の問題を繰り返し取り組ませています。作成したプリントは、放課後の補充学習等でも活用しています。

朝の学習では、担任以外の教員も確かめに関わり、一人ひとりの理解状況を確認め合うようにしています。また、次の時間に取り組ませるプリントを一人ひとりの進度にあわせて準備します。子どもたちはプリントを「朝学ファイル」にファイリングし、自分がどこまで進んだのか、自分の得意や苦手は何なのかを確認められるようになっています。

#### 成果 子ども一人ひとりが理解・定着状況を確認めながら、着実に学習内容を身に付けています

子どもたちが図示することで、自分の考えが正しいかどうか見直すことができ、テストやプリントの問題を見直して解くことで正答が多くなってきました。また「ステップアップ方式」のプリント学習を繰り返しながら、基礎的・基本的な問題でつまずいていた子どもが、問題を数多く解けるようになり、それが自信につながってきています。学校全体で、一つひとつの取組について共通理解を図り、組織的に取り組んできた成果が着実に結果として表れてきました。今後も、個を大切に、対話的な学びと自力で考える授業をとおして、子どもたちの「わかった」「できた」という自信を育み、学び合いのできる学級集団の力を高め、意欲的・主体的に学ぶ子の育成を図ることをめざして取組を進めていきます。

「確かな学力の向上」については、子どもの「生きる力」を育むものであると捉えています。様々な知識や技能を身に付けるだけでなく、困難な課題に対して諦めずに自らの力で解決しようとしたり、解決方法を考えたりできる力をつけていく必要があります。そこで、将来の自分の夢に向かって努力していけるような基礎学力を身に付けるための取組を進めています。

### ○朝の学習・昼の学習における継続した取組

内容・実施時間：【国語科】漢字 【算数科】計算

		月	火	水	木	金
朝の学習 (8:30~8:45)	1・2年生	読書(※1)				
	3~6年生	読書(※1)	漢字	読書(※1)	漢字	漢字
昼の学習 (13:35~13:50)	1・2年生	計算	漢字	計算	漢字	漢字
	3~6年生	計算	※2	計算	※2	※2

※1の時間帯は、読書を実施 ※2の時間帯は、国語または外国語活動の授業を実施

### 取組① 漢字プリントに取り組み、検定合格をめざす

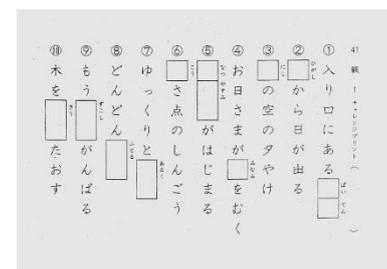
#### ○漢字プリント・検定プリントを実施

漢字プリント	学習する学年	検定合格 目標学年	検定 合格点
50~47級	1年生(80字)	2年生	90点 以上
46~39級	2年生(160字)	3年生	
38~29級	3年生(200字)	4年生	
28~19級	4年生(200字)	5年生	
18~10級	5年生(185字)	6年生	
9~1級	6年生(181字)	中学生	
1段~	中学生		

※漢字プリント、検定プリントは、教科書をもとに学校で作成

※各級の漢字プリントは、チャレンジプリント1~3(資料1)の3枚で構成

※検定プリントは各級に1枚あり、チャレンジプリント1~3(30問)の中から20問を出題



(資料1) チャレンジプリント

#### 〈学習の流れ〉

- ①児童が各自で、自分の進度の漢字プリントを所定の棚から取り、取り組む。
- ②担任に提出する。(その場で担任が確かめをして、返却する。)
- ③プリントの裏のマス目に漢字練習をする。
- ④漢字練習をしたプリントを担任に確認してもらい、次のプリントに進む。
- ⑤取り組んだプリントをファイルに綴じる。

#### 〈検定について〉

- ①各級のチャレンジプリント1~3を終えた後、検定プリントに挑戦。
- ②担任に採点してもらい、90点以上(20問中18問正答)で合格。
- ③合格した級については、ファイルに綴じてある「漢字がんばり表」(資料2)の該当級の欄に日付を記入し、合格のシールを貼る。

#### ○継続した取組による漢字の力の定着

- ・各級ごとに検定を設けることで、児童にとって明確な目標が持てるとともに、検定合格により達成感を得ることができ、次の学習への意欲の向上につながっています。また、児童が自分のペースで、継続して6年間取り組むことで、漢字の力が着実に育まれています。



(資料2) 漢字がんばり表

### 取組② 学習中の単元の基礎となる計算プリントを各学年で実施

#### ○各学年での実施方法

- ①配付された計算プリントの問題を解く。
- ②答え合わせをする。(わからない問題→担任が助言する。児童間で聞き合う。)
- ③取り組んだ計算プリントをファイルに綴じる。

#### ○学習内容の積み上げによる計算する力の定着

- ・学習中の単元の基礎となる計算問題に取り組むことで、基礎学力の定着を図ると同時に、現在学習している単元の学習内容の確実な理解と定着につながっています。

### 成果 毎日の継続した取組により、子どもたちが漢字・計算を確実に身に付けています

朝の学習・昼の学習は、児童が入学してから6年間、毎日15分ずつ取り組んでいます。全国学調の国語Aにおける漢字の問題で、全国の平均正答率との差が改善してきていることから、児童が自分のペースで継続的に取組を進めていることが、基礎基本の確実な定着につながっていると考えます。

神田小学校では、「わからない」と自分から言える、安心して学べる学級集団を大切にし、「『主体的・対話的で深い学び』のある授業」の研究を算数科の少人数指導を通して進めています。1年生はティーム・ティーチング、2年生は均等割、3年生以上は習熟度別による少人数指導に取り組んでいます。

**取組 ① わからないことを「わからない」と言える学級集団づくり**

○学び合う姿を価値づける

「わからないことを自分から聞く」「ノートを真ん中に置き、図や式を使って話す」など、子どもたちが学び合う姿を写真で残し価値付けています。教員だけで共有するのではなく、校内に掲示して学びのイメージを発信することで、子どもと共に授業づくりを進めています。



○わからないことはペアで考える

わからないことはペアで考えることを徹底しています。「ここまではわかる」「ここからわからない」と言えること、「わからないから教えて」と聞かれたら相手にわかるまで責任を持って説明することを大切にしています。黒板を使って説明してもよいし、ペアでわからないければ他のペアに聞きに行ってもよいと指導しています。個人で考える時間でも、自然にペア学習、グループ学習に移行していく場面も見られます。全体共有の場面では、ペアで前に出て協力して説明します。

**取組 ② 低学力層 10%未満を実現する少人数指導**

○習熟度別コース編制

コース選択は、児童と保護者の希望をもとに、担任と少人数指導担当で調整をしています。コースは「じっくりコース」と「ぐんぐんコース」の2つで、学期の途中で変更することができます。どちらのコースでも、図や数直線図、言葉、数字を使って論理的に思考し表現できる力を付けることを指導の重点に置いています。これまでの取組から、基礎基本の習熟に時間をかける「じっくりコース」は、人数を10人程度にすることが効果的だということがわかってきました。

○指導教諭と担任との連携

指導教諭は少人数指導のコーディネーターとなり単元構想を考えます。そして、単元ごとの指導事項を担当と話し合います。その結果、どちらのコースでも同じねらいで授業を進めることが可能になります。話し合いは必ず週1回、学年会の中に位置づけています。

○単元テスト・学力調査の活用

指導教諭は単元テストや総合学力調査等の分析結果をデータ化し、単元構想や、担任との話し合いのエビデンスにします。授業者がコースごとや学級ごとの課題、一人ひとりの子どものつまづきを継続して把握することができ、どの学年のどの単元をより時間をかけて指導するのか等、系統立てた指導やきめ細かな指導につなげています。



**取組 ③ 授業の中で定着・発展に取り組む時間を設定**

○定着・発展の時間

時間配分や指導内容を工夫し、単元の終わりに定着状況を確認したり、発展的な問題に挑戦する補充学習の時間を設定しています。学習内容の定着を図ってから単元テストに臨むことで、子どもたちの自信にもつながっています。

○全国学調、みえスタディ・チェック、総合学力調査の再活用

年間指導計画に、全国学調、みえスタディ・チェック、総合学力調査の再活用を位置づけて取り組んでいます。

**成果 習熟度別少人数指導により、子どもたちの学習内容の理解と定着が図れています**

習熟度別少人数指導に取り組み始めてから、総合学力調査の結果による低学力層の子ども割合が大きく減りました。また、子どもたちの学習内容の定着状況をデータで把握することで、取り組むべき課題が明確になり、教員の意識も変わってきました。今後も東員町16年一貫教育プランに則り、「勤勉性」につながる「自ら学び合う力」を育む授業づくりに向けて研修を進めていきます。

二見中学校の1年生、2年生では、数学科において習熟度別少人数指導に取り組んでいます。「基礎 (α)」コースでは、基礎的・基本的な内容にじっくり取り組めるように、「標準・応用 (β)」コースでは、お互いが学び合う授業をめざして自分の考えを自信を持って人に伝えられるように進めています。「標準・応用 (β)」コースでは、少しずつ伝えられる様子が伺え、自信も高まってきています。「基礎 (α)」コースでは、授業中に学習内容を「わかった」と理解したように生徒が思っている、時間が経つと「なんでここがこうなるの」「どうしたらいいの」と疑問の声が出るなど、わからないところをつきつめて確認するところまでいかず、定着につながっていない現状があります。

生徒には、今まで以上に数学に興味を持って、主体的に楽しく学んでほしいと、いろいろな「数」を使って「楽しむ」意味を込めて「数楽ラボ」と名付けた通信を発行しています。生徒が今まで以上に数学に興味を持てるよう、特に習熟度別指導、家庭学習における予習や復習、課題プリントの活用を力を入れて取り組んでいます。

## 取組 ① アンケートによる生徒の意識の把握と保護者へのきめ細かな説明によるコース選択

### ○習熟度別コースの選択

基礎 (α) コースと標準・応用 (β) コースで生徒の人数の割合は1 : 2としています。コース選択については、生徒の希望を踏まえながらも、生徒の学習状況や特性、生徒同士の人間関係、コースにおけるリーダーづくりに留意し、コースの自己選択ができるよう面談で生徒を支援しながら決定します。また、数学部会や担任と授業の進度や生徒の様子を絶えず情報交換し、次時の指導につなげています。

### ○保護者への「習熟度別指導」と「評価」の説明

保護者へは、習熟度別指導のねらいやコースの特徴、学習の進め方について4月当初の学年懇談会や文書で説明します。また「学習の進度は同じであること」と「どちらのコースも共通に定期テスト・小テスト・学習態度・発表・提出物・コミュニケーション活動を総合して評価すること」を丁寧に伝えます。

### ○生徒のコース変更について

生徒のコース変更については、定期テスト・小テストの状況、アンケートや面談により、生徒の学習状況や学習意欲を把握したうえで、変更できるようにしています。面談では、生徒の自己認識に基づく適切なコース選択が行えるよう留意しています。

#### <生徒の感想>

・一斉授業では意見を言ったり、わからないところを聞いたりすることができませんでした。コース別で学習することで気軽に人に聞いたり、話し合ったりできるなど、自分の意見が出しやすくなりました。  
・今まで数学が苦手でしたが、コース別になり自分にあった授業を受けることで少しずつテストの点数が上がって本当に嬉しいと思いました。  
・最初の頃は、標準・応用 (β) コースでしたが、数学が得意な人が多く、私が計算問題をしているときに、他の人がすぐに答えを出してしまい、理解するところまでいかず、とても大変でしたが、基礎 (α) コースに変更して、進むスピードもゆっくりで丁寧に教えてくれたので、ゆとりを持って授業に臨むことができてよかったです。

## 取組 ② コースに応じた家庭学習と学習内容を確認する宿題用課題プリントの実施

### ○習熟度別コースに応じた家庭学習

基礎 (α) コースでは、復習を重視した家庭学習を、標準・応用 (β) コースでは、予習を重視した家庭学習を行っています。各コースの家庭学習の方法を「数楽ラボ」通信により、生徒、家庭に伝え、確実な学習内容の理解・定着につなげています。

### ○課題プリントの利用

1週間ごとに生徒自身が学習内容を確認する宿題用の課題プリントを教員が作成し、生徒に提供しています。生徒が自ら進んで「やってみよう」と意欲を持たせるように教員が働きかけながら添削しています。あわせて、教員が詳しい問題の解説を作成し、廊下に掲示しています。

#### 《これからの学習方法》

#### α コース

学校で学んだ後一家で必ず復習して下さい。  
復習の方法→(ノートに書いたことを違うノートに書き写す。学校でやった問題を解き直して自分の力でやってみる。)  
宿題は、必ずやること。(わからなかったら授業が始まる前に友達に聞いてノートに書いておこう。)

#### β コース

必ず予習をしてくる。授業で初めて聞くと言えないようにしておくこと。  
授業では、復習をする感じで、先生が話していることは教科書のどこに書いてあるかが、直ぐわかるようにしておく。  
教科書に書いてあることは、聞かれたら直ぐ答えられるようにしておく。

βコースでは、予習が出来ることを条件として、授業を進めていくようにします。学習の時間を多く取るようにしていきます。(ただし、これはみなさんの能力が重要です。)  
ワンランク上の問題に1つでも多く挑戦しましょう。



## 成果 学習に取り組む意欲や自信を持って取り組む姿勢が育まれています

習熟度別少人数指導の導入により、大勢の中で自分の意見を言えなかった生徒が、自信を持って他の生徒に自分の意見を伝える場面が見られ、考えも深めることができました。

昨年度3月に、「みえスタディ・チェック」を再活用し、各学年で習った基本的事項が、身に付いているかどうかを確認したところ、無解答率が減少しました。今後、その単元の学習内容だけでなく他の単元や日常生活との関連にも触れることで、生徒が体験・学習し得た知識を日常生活の中で活用できるようにしていきたいと考えています。

神辺小学校では、各学年で今まで学んだ学習の確認テストを行い、子どもたちのつまずきの状況を把握しています。そして、つまずきの克服に向けて、地域ボランティアの協力を得て、毎週金曜日に全校体制で補充学習を実施し、学習内容の定着を図っています。また、週末の家庭学習において、つまずきに応じたプリント（4～5枚）を宿題とし、確認テスト→補充学習→週末の家庭学習のサイクルを確立させるなかで、子どもたちに学習内容の定着を全校体制で図っています。

**取組 ① 確認テスト・金曜の補充学習・週末の家庭学習の取組による学習内容の定着**

○**確認テストを実施し、子どもつまずきを教員全体で共有**

- ・確認テストを実施し、子どもたち一人ひとりが、どの単元のどこでつまずいているかがわかる「算数カルテ」を作成しています。また、単元ごとのつまずきの人数をグラフ化したものを教員に配付し、子どもつまずきを教員全体で共有しています。

○**地域ボランティアの協力による全校での補充学習（毎週金曜日）の実施**

- ・1年生から3年生は6限目(短縮日課)、4年生から6年生は7限目(短縮日課)に行います。地域ボランティアは1年生から3年生に支援や丸つけで入り、1年生から3年生の担任は4年生から6年生の支援に入ります。そうすることにより、1年生から3年生の学習が上の学年のどの学習につながっているのかも確認ができ、特に子どもたちがつまずいている内容について、すべての教員が小学校6年間の学習内容のつながりを意識して指導を行うことにつながっています。
- ・つまずきのある単元について学年をさかのぼってプリント学習を行い、子どもたち一人ひとりの学習内容の理解・定着につながっています。1学期は、個人の弱みを克服することを中心として、それぞれのつまずきに応じたプリント学習に取り組みました。2学期は、「算数カルテ」から弱みが見られる単元の授業をもう一度行い、その単元の補充学習プリントに取り組みさせることで、学習内容の定着を図っています。



地域ボランティア用の  
ファイリング棚

○**金曜の補充学習と週末の家庭学習の連動**

- ・県作成のワークシート（学-Viva!!セット）から子どもたちのつまずきに応じた内容（4～5枚）を選定し、「チャレンジワークシート」として毎週金曜日に配付し、週末の宿題として子どもたちが取り組みます。家庭学習においても、すでに学習した内容を確かなものとし、学習内容の定着を図ります。

**取組 ② 朝の学習での地域ボランティアの支援**

朝の学習の時に、地域ボランティアが各クラス2名程度入り、丸つけや、子どもたちへのアドバイスを行います。そのために地域ボランティア用にワークシートや解答をファイリングして渡しています。

**取組 ③ 家庭での学習習慣の確立に向けた学校からの情報発信**

○**「家庭学習の手引き」の配付（4月）**

- ・「学力アップは規則正しい生活から！」というキャッチフレーズのもと、家庭学習の習慣化に向けて取り組むことや、家庭学習を習慣づけるための保護者の役割、各学年におけるつけたい力、自主学習ノートの大切さについて伝えています。あわせて、学年をさかのぼって繰り返し学習することで既習事項が定着し、新たに学ぶ学習内容の理解を助けることにつながることも伝えています。

○**「学校だより」での発信**

- ・「学校だより」において、週末に取り組む「チャレンジワークシート」の意義や取り組み方についてお知らせし、保護者の理解・協力を得られるよう働きかけています。また、「学校が頑張ること」として、授業改善の取組や子どもつまずきに応じた補充学習、繰り返し学習、家庭学習の取組を記載するとともに、「保護者・家庭で頑張っていたきたいこと」として、学習時間など、1日の生活を規則的に設定することや、子どもの学習の状況を確認することなどを伝えています。

**成果 学習内容の定着及び学習習慣の確立につながられています**

地域と連携し、確認テスト・補充学習・週末の家庭学習の流れを確立するなかで、昨年度からの取組もあり、わかっているつもりになっていたが、確実に理解していないことに子どもたちが自ら気づき、補充学習に意欲的に取り組む姿や、「チャレンジワークシート」に取り組む際に、既習事項を活用することで問題が解けるという達成感を実感するなかで、これまではあきらめていたような問題にも取り組む子どもたちが増える等、学習内容の定着及び学習習慣の確立が図られつつあります。今後も、組織的に学習内容の理解と定着を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となり、自ら考え、自ら学ぶ力を育てていきます。

読書活動の充実に向け、御浜町として各小中学校の図書室の環境を整えるとともに、各小中学校において子どもたちが意欲的に読書に取り組むよう、工夫した取組を進めています。

### 取組 ① 計画的な図書の購入による読書環境の充実

#### ○子どもたちのもとへより早く読書の本を届ける

教育委員会として、年間を通して計画的な図書の購入を進めるとともに、学校の図書室や読書環境の充実に向け、学校司書を配置しています。学校司書の方々の取組により、購入した本がより早く子どもたちの手に届けられ、子どもたちの読書意欲の向上につながっていると考えます。

- ①学校司書を、町内6校（小学校3校、中学校2校、小中併設校1校）に2人配置
- ②各小中学校で、毎年、計画的に図書を購入
  - ・年間を通して、計画的な購入を行うため、学期ごとに図書購入調査（各学校からの購入冊数の報告）を実施
- ③読書の取組状況を把握するため、各小中学校の図書貸し出し冊数を集約（グラフ化）
  - ・毎月、各小中学校から町教委へ図書貸し出し冊数と読書活動の取組状況を報告。取組状況に応じ学校支援を行う

### 取組 ② 教員、子ども、地域ボランティア、学校司書など様々な主体による読書活動

#### ○小学校における取組

- ①1年生では、児童は、読書の時間等に読んだ本を「せんせいにおしえて！（よんだほん）」（記録用紙）に記録し、その内容を担任に伝える
  - ・児童が記録用紙をもとに、担任と読んだ本についてコミュニケーションをとることで、読書への意識の高まりにつながっています。
- ②委員会活動で、新刊、課題図書が入った時に、全校集会で実際に本を提示して紹介
- ③地域のボランティアによる読み聞かせ
  - ・地域のボランティア（読み聞かせの会等）の方々により、全校児童を対象に年間を通して、朝の読書や昼休み、読書の時間に読み聞かせが実施され、子どもたちがより多くの本に触れる機会になるとともに、読書に対する興味の上につながっています。

#### ○中学校における取組

- ①養護教諭による絵本の読み聞かせ
  - ・養護教諭による絵本の読み聞かせには、保健室を利用する悩みを抱えた生徒をはじめ、様々な生徒が参加し、多いときには20名ほどになります。この取組は、生徒が心温まる話に触れるとともに、悩みを抱えた生徒などの心に寄り添うよい機会となっています。
  - \*全校生徒対象、毎週火曜日・木曜日（13:10～13:20）に学校内のホールで実施
- ②朝の読書の時間に中学生による小学生への読み聞かせを実施
  - ・異学年2～3人の班を構成し、選定した数冊の本を持って小学生の教室に出向き、読んで欲しい本を聞き取って、読み聞かせを行っています。
  - \*本の選定や読み聞かせをする中学生の割り振りについては、図書委員会で決定
- ③地域のボランティアによる読み聞かせ

#### ○学校司書による取組

- ①ブックトーク、読み聞かせ
  - ・ブックトークを行った後、その本の読み聞かせを行うことで、子どもたちの本に対する興味が非常に高くなり、読書の推進につながると考えます。
- ②紙芝居      ③本の紹介      ④図書室利用指導（小学校）      ⑤委員会活動に関わる指導
- ⑥ビブリオバトルの実施（中学校）
  - ・学校司書が計画・準備をして、生徒に目的や実施方法を説明
  - ・生徒は本を選定し、数人のグループでビブリオバトルを実施し、代表が全体場で発表

### 成 果 図書貸し出し冊数と読書時間が増加しています

御浜町全体として、児童生徒一人あたりの図書貸し出し冊数が年々増加しています。また、平成30年度全国学調の児童生徒質問紙調査において、授業時間以外の読書時間が平日10分以上と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均を5ポイント以上上回っており、特に小学校においては年々増えてきています。御浜町の調査においても、読書を全くしないという児童生徒はほとんどいない状況です。これらの結果は、町全体として、読書活動の充実を図るための環境整備を行うとともに、各小中学校における工夫した取組、継続した取組が行われている成果であると考えます。

# 第5章 「みえの学力向上県民運動」 主な関連指標【本冊：P55～】

## 平成 27～30 年度の推移一覧

## 小学校における三重県の割合や全国との差の経年推移

※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」、Cは「下降」を表す。  
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。  
 ※表中の○は、上記に示した「A・B・C」及び「+・-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。  
 ※表中の網かけは、当該年度に同じ質問紙項目がなかったものである。

### ≪ 児童質問紙 ≫

質問紙 番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の平均値	三重県	88.3		89.1		88.6		86.0
		全国	88.7	A +	88.8		88.8		86.8
		全国との差	-0.4		0.3		-0.2		-0.8
	(7) 朝食を毎日食べている	三重県	95.3	A +	95.7		95.4		94.7
		全国	95.6	A +	95.5		95.4		94.5
		全国との差	-0.3		0.2		0.0		0.2
	(8) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	三重県	79.0	A +	80.2		79.3		75.1
		全国	79.5	A +	80.1		79.8		77.0
		全国との差	-0.5		0.1		-0.5		-1.9
	(9) 毎日、同じくらいの時刻に起きている	三重県	90.7	A +	91.4		91.1		88.3
		全国	91.0	A +	90.8		91.2		88.8
		全国との差	-0.3		0.6		-0.1		-0.5
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがあると思う」の平均値	三重県	82.1	A +	82.7		83.5		
		全国	82.4	A +	82.3		83.4		
		全国との差	-0.3		0.4		0.1		
	削除 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	三重県	94.5	A +	94.9		95.1		
		全国	94.5	A +	94.4		94.8		
		全国との差	0.0		0.5		0.3		
	削除 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県	76.6	A +	77.6		78.1		
		全国	76.4	A +	76.1		77.4		
		全国との差	0.2		1.5		0.7		
	(1) 自分には、よいところがあると思う	三重県	75.1	A +	75.5		77.4		83.4
		全国	76.4	A +	76.3		77.9		84.0
		全国との差	-1.3		-0.8		-0.5		-0.6
③ (3) 将来の夢や目標を持っている	三重県	85.3	C -	83.7		84.4		83.7	
	全国	86.5	C -	85.3		85.9		85.1	
	全国との差	-1.2		-1.6		-1.5		-1.4	
④	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値	三重県	27.0	A +	24.6		26.6		
		全国	26.6	A +	24.4		25.2		
		全国との差	0.4		0.2		1.4		
	削除 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	35.8	A +	32.4		33.7		
		全国	36.1	A +	32.8		32.7		
		全国との差	-0.3		-0.4		1.0		
	削除 平日のテレビゲーム等の使用（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	18.2	A +	16.8		19.4		
		全国	17.0	A +	16.0		17.6		
		全国との差	1.2		0.8		1.8		
	⑤ 削除 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	6.3	A +	5.9		7.9		
		全国	5.7	A +	5.8		7.0		
		全国との差	0.6		0.1		0.9		
⑥ (14) 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	58.4	A +	60.4		61.6		62.7	
	全国	62.7	A +	62.5		64.4		66.2	
	全国との差	-4.3		-2.1		-2.8		-3.5	
⑦ 削除 休みの日の学習時間（1時間以上）	三重県	45.8	A +	49.0		47.9			
	全国	56.7	A +	57.0		57.3			
	全国との差	-10.9		-8.0		-9.4			
⑧ (15) 授業時間以外の読書時間（平日10分以上）	三重県	61.1	A +	62.4		61.8		64.4	
	全国	64.2	A +	63.5		63.3		66.2	
	全国との差	-3.1		-1.1		-1.5		-1.8	
⑨ (18) 家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をする	三重県	78.6	C -	78.2		77.6		80.0	
	全国	79.5	C -	79.2		78.1		80.5	
	全国との差	-0.9		-1.0		-0.5		-0.5	
⑩ 削除 家の手伝いをしていますか	三重県			82.5					
	全国			82.8					
	全国との差			-0.3					
⑪ (10) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	60.5	A +	61.7		62.8		67.6	
	全国	62.8	A +	62.2		64.5		67.6	
	全国との差	-2.3		-0.5		-1.7		0.0	
⑫ 削除 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	50.1	A +	54.2		51.1			
	全国	54.5	A +	55.2		53.8			
	全国との差	-4.4		-1.0		-2.7			
⑬ 削除 学校に行くのが楽しい	三重県	86.9	A	86.9		87.1			
	全国	87.0	A	86.3		86.3			
	全国との差	-0.1		0.6		0.8			
⑭ (2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う	三重県			83.8		87.2		86.4	
	全国			82.6		86.0		85.3	
	全国との差			1.2		1.2		1.1	
⑮ 削除 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県			87.8		87.7			
	全国			84.8		85.1			
	全国との差			3.0		2.6			

質問紙番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0	
⑯ (20)	地域行事への参加	三重県	72.0		73.1		68.3		66.7	
		全国	66.9	A +	67.9	A -	62.6	C -	62.7	
		全国との差	5.1		5.2		5.7		4.0	
⑰ (21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	60.9		71.3		62.0		62.0	
		全国	63.9	A +	70.6	C ⊖	63.9	A	63.8	
		全国との差	-3.0		0.7		-1.9		-1.8	
⑱ (23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県			30.8		30.3		30.8	
		全国			36.2	A -	35.4	C +	36.1	
		全国との差			-5.4		-5.1		-5.3	
⑲	子どもたちの規範意識の状況 「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	93.7		94.4		94.0		93.7	
		全国	93.7	A +	94.0	C -	93.7	C -	93.8	
		全国との差	0.0		0.4		0.3		-0.1	
	(4) 学校のきまりを守っている	三重県	91.0		91.8		92.8		88.6	
		全国	91.1	A +	91.5	C +	92.6	C -	89.5	
		全国との差	-0.1		0.3		0.2		-0.9	
	(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	96.5		96.8		96.4		97.0	
		全国	96.2	C +	96.6	A -	96.1	C +	96.8	
		全国との差	0.3		0.2		0.3		0.2	
	(6) 人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	93.7		94.5		92.8		95.5	
		全国	93.7	A +	93.8	C -	92.5	B +	95.2	
		全国との差	0.0		0.7		0.3		0.3	
⑳ 削除	主体的・協働的な授業に取り組んでいる 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	三重県	71.0		75.0		72.8			
		全国	74.2	A +	75.7	C -	75.1			
		全国との差	-3.2		-0.7		-2.3			
㉑ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	83.0		88.8		89.4			
		全国	86.3	A +	87.6	B +	88.2			
		全国との差	-3.3		1.2		1.2			
㉒ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	71.4		76.9		78.8			
		全国	75.3	A ⊕	76.1	A +	76.2			
		全国との差	-3.9		0.8		2.6			
㉓ 削除	国語の授業の内容がよく分かる	三重県	82.2		81.4		83.4			
		全国	82.0	A -	80.7	A +	82.2			
		全国との差	0.2		0.7		1.2			
㉔ (29)	算数の授業の内容がよく分かる	三重県	81.3		82.6		83.3		85.5	
		全国	81.0	A +	80.2	A +	80.6	C +	83.4	
		全国との差	0.3		2.4		2.7		2.1	
㉕	削除	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、算数の平均値	三重県	89.0		90.3		89.0		
			全国	89.5	A +	89.6	C -	88.5		
			全国との差	-0.5		0.7		0.5		
	削除	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	88.0		90.0		88.7		
			全国	88.6	A +	89.2	B -	87.9		
			全国との差	-0.6		0.8		0.8		
	(33)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	90.0		90.5		89.3		91.2
			全国	90.3	A +	89.9	C -	89.1	A +	90.3
			全国との差	-0.3		0.6		0.2		0.9

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0	
⑯ (26)	削除	対象児童に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	81.8		83.1		82.8		
			全国	82.6	A +	83.0	C -	83.9		
			全国との差	-0.8		0.1		-1.1		
⑰ (27)	削除	対象児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（週に2回以上）	三重県	22.7		21.8		25.6		
			全国	17.7	C -	17.9	A +	19.0		
			全国との差	5.0		3.9		6.6		
⑱ (28)	削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	97.8		98.7		98.8		
			全国	98.1	A +	98.8	C +	99.0		
			全国との差	-0.3		-0.1		-0.2		
㉑ (29)	削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	89.9		93.0		95.3		
			全国	93.9	A +	94.9	A +	95.4		
			全国との差	-4.0		-1.9		-0.1		
⑳ (30)	(30)	学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	97.6		99.4		98.1		99.4
			全国	96.7	A +	98.4	C -	97.4	C +	99.0
			全国との差	0.9		1.0		0.7		0.4
㉑ (31)	(31)	前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	98.1		97.6		98.9		98.4
			全国	95.8	C -	97.0	A +	96.6	C -	97.6
			全国との差	2.3		0.6		2.3		0.8
㉒ (53)	(53)	地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	82.9		88.4		90.4		89.6
			全国	76.3	C ⊕	82.4	A +	84.2	B -	83.4
			全国との差	6.6		6.0		6.2		6.2
㉓ (84)	(84)	校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	95.4		98.2		96.6		96.9
			全国	93.1	A +	94.2	C -	94.5	C +	95.1
			全国との差	2.3		4.0		2.1		1.8

※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」、Cは「下降」を表す。  
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。  
 ※表中の○は、上記に示した「A・B・C」及び「+・-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。  
 ※表中の網かけは、当該年度に同じ質問紙項目がなかったものである。

≪生徒質問紙≫

質問紙 番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に就寝している」「毎日、同じくらいの時刻に起床している」の平均値	三重県	86.8		87.4	-	87.1	-	85.2
		全国	86.9	A +	86.9	C -	87.1	C -	85.5
		全国との差	-0.1		0.5		0.0		-0.3
	(7) 朝食を毎日食べている	三重県	93.1		93.8	-	93.6	-	92.0
		全国	93.5	A +	93.3	C -	93.2	C -	91.9
		全国との差	-0.4		0.5		0.4		0.1
	(8) 毎日、同じくらいの時刻に就寝している	三重県	75.3		75.6	+	75.7	-	74.0
		全国	75.2	A +	75.2	C +	75.6	C -	74.2
		全国との差	0.1		0.4		0.1		-0.2
	(9) 毎日、同じくらいの時刻に起床している	三重県	91.9		92.7	-	92.0	-	89.6
		全国	92.1	A +	92.3	C -	92.4	C -	90.3
		全国との差	-0.2		0.4		-0.4		-0.7
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがあると思う」の平均値	三重県	78.1		79.0	+	80.6		
		全国	77.0	A +	77.7	A +	78.8		
		全国との差	1.1		1.3		1.8		
	削除 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	三重県	95.1		95.0	+	95.5		
		全国	94.2	C -	94.3	A +	94.7		
		全国との差	0.9		0.7		0.8		
	削除 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県	69.7		70.8	+	73.2		
		全国	68.8	A +	69.6	A +	71.0		
		全国との差	0.9		1.2		2.2		
	(1) 自分には、よいところがあると思う	三重県	69.4		71.3	+	73.2	⊕	79.9
		全国	68.1	A +	69.3	A +	70.7	C	78.8
		全国との差	1.3		2.0		2.5		1.1
③ (3) 将来の夢や目標を持っている	三重県	71.7		71.0	+	71.2	+	72.5	
	全国	71.7	C -	71.1	A +	70.5	C +	72.4	
	全国との差	0.0		-0.1		0.7		0.1	
④	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値	三重県	27.7		23.4	-	25.5		
		全国	25.5	A +	21.5	C -	23.4		
		全国との差	2.2		1.9		2.1		
	削除 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	32.4		25.5	-	27.3		
		全国	30.5	A ⊕	24.1	C -	25.3		
		全国との差	1.9		1.4		2.0		
	削除 平日のテレビゲーム等の使用（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	22.9		21.2	-	23.6		
		全国	20.5	A +	18.9	A -	21.4		
		全国との差	2.4		2.3		2.2		
	⑤ 削除 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	21.5		18.6	-	20.6		
		全国	18.2	A +	16.6	C -	18.1		
		全国との差	3.3		2.0		2.5		
⑥ (14) 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	66.5		65.2	+	66.5	+	67.5	
	全国	69.0	C -	67.9	C +	69.6	B	70.6	
	全国との差	-2.5		-2.7		-3.1		-3.1	
⑦ 削除 休みの日の学習時間（1時間以上）	三重県	59.9		59.8	+	62.0			
	全国	68.7	A -	67.8	A +	69.4			
	全国との差	-8.8		-8.0		-7.4			
⑧ (15) 授業時間以外に読書をする子どもたちの割合（10分以上）	三重県	48.6		46.4	+	47.7	+	49.6	
	全国	52.2	A -	49.7	C +	51.4	C +	53.5	
	全国との差	-3.6		-3.3		-3.7		-3.9	
⑨ (18) 家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をする	三重県	73.4		73.7	+	74.0	+	75.4	
	全国	73.7	C +	74.1	A +	74.3	C +	76.0	
	全国との差	-0.3		-0.4		-0.3		-0.6	
⑩ 削除 家の手伝いをしていますか	三重県			66.8					
	全国			67.2					
	全国との差			-0.4					
⑪ (10) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	51.0		50.3	+	54.3	+	54.8	
	全国	48.8	C -	48.4	A +	51.5	C +	52.1	
	全国との差	2.2		1.9		2.8		2.7	
⑫ 削除 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	48.9		48.5	+	48.6			
	全国	52.0	A -	51.0	A +	50.5			
	全国との差	-3.1		-2.5		-1.9			
⑬ 削除 学校に行くのが楽しい	三重県	83.9		84.0	-	82.9			
	全国	82.1	A +	81.4	C -	80.9			
	全国との差	1.8		2.6		2.0			
⑭ (2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う	三重県			79.6	+	82.2	+	84.2	
	全国			78.0	A +	80.4	A +	82.2	
	全国との差			1.6		1.8		2.0	
⑮ 削除 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県			77.4	+	79.3			
	全国			74.1	A +	75.5			
	全国との差			3.3		3.8			

質問紙番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0
⑯ (20)	地域行事への参加	三重県	50.7		50.9		47.2		49.6
		全国	44.8	C +	45.2	C -	42.1	C +	45.6
		全国との差	5.9		5.7		5.1		4.0
⑰ (21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	53.6		65.9		57.8		58.5
		全国	55.9	A ⊕	65.8	C ⊖	59.2	A ⊕	59.3
		全国との差	-2.3		0.1		-1.4		-0.8
⑱ (23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県			45.7		46.3		47.7
		全国			48.7	C +	49.7	C +	51.8
		全国との差			-3.0		-3.4		-4.1
⑲	子どもたちの規範意識の状況 「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	94.4		94.2		94.1		95.9
		全国	93.9	B -	93.7	A -	93.3	C +	95.2
		全国との差	0.5		0.5		0.8		0.7
	(4) 学校の規則を守っている	三重県	95.2		95.9		96.5		96.0
		全国	94.4	A +	94.7	A +	95.2	C -	95.1
		全国との差	0.8		1.2		1.3		0.9
	(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	93.9		93.7		93.0		96.2
		全国	93.7	C -	93.6	A -	92.8	A +	95.5
		全国との差	0.2		0.1		0.2		0.7
	(6) 人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	94.1		93.0		92.7		95.5
		全国	93.7	C -	92.8	A -	91.9	C +	94.9
		全国との差	0.4		0.2		0.8		0.6
⑳ 削除	主体的・協働的な授業に取り組んでいる 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	三重県	69.9		73.1		74.1		
		全国	65.7	C +	69.3	C +	71.3		
		全国との差	4.2		3.8		2.8		
㉑ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	75.5		85.5		90.2		
		全国	79.7	A ⊕	84.9	A +	87.8		
		全国との差	-4.2		0.6		2.4		
㉒ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	58.3		68.8		72.1		
		全国	59.3	A ⊕	63.1	A +	66.1		
		全国との差	-1.0		5.7		6.0		
㉓ 削除	国語の授業の内容がよく分かる	三重県	76.3		75.4		77.6		
		全国	74.3	C -	74.1	A +	74.9		
		全国との差	2.0		1.3		2.7		
㉔ (29)	数学の授業の内容がよく分かる	三重県	75.4		74.9		75.0		75.0
		全国	71.6	A -	69.4	A +	69.4	C	71.0
		全国との差	3.8		5.5		5.6		4.0
㉕	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、数学の平均値	三重県	79.1		79.3		79.8		
		全国	78.4	A +	78.1	A +	77.9		
		全国との差	0.7		1.2		1.9		
	(33) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	85.0		85.4		85.3		
		全国	84.2	B +	84.6	A -	83.3		
		全国との差	0.8		0.8		2.0		
	(33) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	73.2		73.1		74.3		74.8
		全国	72.5	A -	71.5	A +	72.4	B +	72.9
		全国との差	0.7		1.6		1.9		1.9

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目		H 2 7	H 2 7-H 2 8	H 2 8	H 2 8-H 2 9	H 2 9	H 2 9-H 3 0	H 3 0
㉖ 削除	対象生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	44.7		45.3		48.4		
		全国	44.9	C +	46.5	B +	49.6		
		全国との差	-0.2		-1.2		-1.2		
㉗ 削除	対象生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（「週に2回以上」）	三重県	13.7		12.0		15.3		
		全国	14.9	C -	15.6	A +	15.6		
		全国との差	-1.2		-3.6		-0.3		
㉘ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	87.6		100.0		98.8		
		全国	95.7	A ⊕	97.8	C -	98.3		
		全国との差	-8.1		2.2		0.5		
㉙ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	87.5		96.2		96.8		
		全国	90.9	A ⊕	93.0	C +	94.3		
		全国との差	-3.4		3.2		2.5		
㉚ (29)	学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	99.4		98.8		96.8		99.4
		全国	95.8	C -	97.2	C -	95.5	A +	97.9
		全国との差	3.6		1.6		1.3		1.5
㉛ (30)	前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	94.4		95.5		94.2		97.5
		全国	93.2	C +	94.8	C -	94.4	A +	96.1
		全国との差	1.2		0.7		-0.2		1.4
㉜ (51)	地域等の人材を招へいした授業等の実施	三重県	64.0		74.2		75.8		75.9
		全国	58.8	A ⊕	65.1	C +	68.9	C +	70.1
		全国との差	5.2		9.1		6.9		5.8
㉝ (81)	校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	81.4		88.1		88.5		91.8
		全国	81.4	A ⊕	82.6	C +	83.5	A +	85.4
		全国との差	0.0		5.5		5.0		6.4

## 第6章 今後の取組【本冊：P59～】

子どもたちの「わからない」「できない」を、「わかった」「できた」という実感につなげられるよう、県教育委員会では、広域教育行政の立場から、子どもたちが学習内容を確実に理解・定着できる取組を進め、より一層市町と連携しながら学校・家庭・地域の取組を支援してまいります。

### 学習内容の理解・定着状況を確認するための取組

#### (1) 確認用ワークシート（学-Viva!!セット）の提供

学-Viva!!セットに、学習内容の定着状況が確認できるよう、当該学年で身につけておくべき基礎からの標準的な問題を集めたワークシートを加えて提供します。各学校においては、全国学調の結果分析等から明らかになった課題における学習内容の理解・定着が図られるよう、計画的に活用してください。

#### (2) みえスタディ・チェックの改善

これまで毎回異なる問題を出題していましたが、1月実施分は4月実施からの定着状況の確認や経年で比較検証ができるよう、同一、同趣旨の問題で作成します。実施後、課題の理解・定着状況を把握し、課題を改善する取組を進め、子どもたち一人ひとりの学習内容の確かな理解と定着を図ってください。

#### (3) 子どもたちの理解・定着状況に応じた少人数指導

子どもたちの課題に応じて、より学習内容の理解・定着が図られるよう、「効果的な少人数指導推進ガイドブック」をふまえ、教科・単元の特性に応じた指導形態による少人数指導の取組を推進します。

### 経年的な課題の改善に向けた取組

#### (1) 「わかる・できる育成カリキュラム」の提供

各学年の学習内容の積み上げが必要な小学校算数の「割合」「図形」について、小学校6年間の学習内容のつながりを把握し、より効果的な指導が行えるよう、「『割合』『図形』における子どもたちの理解の状況」「小学校算数科における『割合』『図形』の学習のつながり」「『割合』『図形』における指導のポイント」「たしかめプリント」で構成した指導資料「わかる・できる育成カリキュラム」を作成し、全小学校教員及び中学校に提供しました。

また、各学校において子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認できるたしかめプリント「割合スペシャル」を各校1部配付するとともに、計算マスター、図形たしかめプリント（追加版）を、授業改善サイクル支援ネットに掲載しました。

各学校で小学校6年間の学習内容のつながりを理解した授業実践に向け、「わかる・できる育成カリキュラム」を活用してください。

#### (2) 数学的思考力を育成するPC版学習教材「Think!Think!」の提供

展開図が立体になるかどうかを頭の中で考えたり、平面図形で補助線をイメージしたりすることなど、PC上でゲーム感覚で学べる教材「Think! Think!」を活用して、「空間認識」「平面図形」「数学的处理」等の感覚を低学年から身に付けられるよう、活用を希望する小学校及び特別支援学校に、民間企業と連携して、PC版学習教材「Think!Think!」を提供しています。

### 教職員研修での取組

#### (1) 新任校長研修における取組

新任校長研修に授業改善のマネジメント、教員の授業力向上に向けた指導・助言方法などを取り入れます。

#### (2) 教職員研修における取組

若手教員を対象とした研修に、めあて・振り返りの効果的な実施、子どもの課題に対応した授業づくり、教材の活用などについて、授業改善に向けたより実践的な取組を位置付けます。

### (1) 生活習慣の確立

県 PTA 連合会と連携し、生活習慣・読書習慣チェックシートの取組を実施します。

また、子どもを持つ保護者が、話し合いやワークを通じて子育てや家庭教育を学ぶ「みえの親スマイルワーク」が就学前検診、入学説明会等の場で実施されるよう、ファシリテーター養成講座を開催するとともに、ワーク進行について助言・支援を行います。また、実践事例を集めて発信することでワークの実施を拡大していきます。

### (2) 読書習慣の確立

これまでの取組（ビブリオバトル、ビンゴカード）に加え、朝の一斉読書の時間等の活用をはじめとした学級全体で取り組める読書活動を提案し、取組を行う学校へ、各取組の実施手順などを示した簡単な資料を提供するなど、学校における取組の実施を支援します。

### (3) 地域による学習支援

子どもたちが参加しやすい時間帯に実施している例や、全国学力・学習状況調査の結果等から見えてきた子どもたちのつまずきに応じた内容にしている例など、工夫した学習支援の事例を収集し市町等教育委員会に提供していきます。

また、中学校区における地域未来塾等、地域で学習支援を行う団体と子どもたちのつまずきや学校の課題を共有し、子どもたちの状況に応じた支援ができるよう市町等教育委員会と連携して取組を進めます。

#### <参考> 「子どもの問題は、大人の問題」です。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばして支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成 28 年度からの 4 年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組みます。

（「みえの学力向上県民運動 基本方針」より一部抜粋）

#### <参考>

「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」 (<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>)

##### ○基本方針

・県民運動の趣旨等をご覧ください。

##### ○生活習慣・読書習慣チェックシート

・ご家庭でダウンロードして活用していただけます。

##### ○みえの親スマイルワーク

・「みえの家庭教育応援プラン」に基づき作成された、学級・学年の懇談会、PTA の行事などの機会や、地域のサークルや企業内での集まりなど、研修会や学習会だけでなく、さまざまな場面で活用していただけるワークを掲載しています。